



問

津市独自に小中学生と障がい者の医療費窓口無料の実施を

国による小中学生や障がい者の医療費窓口無料の実施に伴う国からの負担金の減額措置は、不要な受診の増加と医療費の拡大を懸念したものであるが、他県では小中学生の窓口無料を実施した結果、早期受診による重篤化防止に役立ったなどの意見もある。津市でも窓口無料の対象を小中学生と全ての障がい者に広げ、実績を上げ、国に減額措置の廃止を迫るべきと考えるが、どうか。

答

国による減額調整措置の廃止を第一義と考え、働きかけていく

医療保険制度については、必要な医療が適切に提供されるべきであり、津市でも子育て世代や障がいのある人の負担を軽減するため、福祉医療費の助成を行っている。その一方、保険者の立場としては、安定的な事業運営を図るため、できる限り医療費が抑制されるよう取り組むことが求められている。

津市としては、医療費窓口無料の実施に当たっては、国による不合理な減額調整措置の廃止がなされることが第一義と考え、今後もあらゆる機会を捉えて、減額調整措置の廃止を働きかけていく。

その他の質疑・質問

- 小中学校の女子トイレに生理用品の常備を
- 愛好者・競技者が安心して利用できるスケートボード練習場の整備を
- 物価高騰に伴う集会所の建築・修繕に関する値上がりに対応を

▶ スケートボードの練習をする若者。障害物は手作りだ



問

母なる大地をこれ以上傷つけてよいのか

津市内には風力発電施設が何基あり、風力発電・太陽光発電でどの程度家庭用電力を賅っているのか。また、賅えているとすると、山を切り開いたり、母なる大地を傷つけて、風力発電施設をこれ以上造る必要はあるのか。

また、経ヶ峰の年間登山客数はどれくらいか。そして、登山客が下山した後にお金を使ってもらえるような方策は考えているのか。

答

生活環境に配慮した再生可能エネルギー推進に努める考え

風力発電施設は、津市内で38基が稼働している。令和3年12月末時点で津市の再生可能エネルギーの発電出力の規模が50万6千キロワットを超えており、これは家庭用電力全部を賅える量を大きく超えているが、家庭用が賅えているから十分だという考えではなく、周辺環境に配慮しながらまだまだ再生可能エネルギーの普及を進めていくべきだと考えている。

経ヶ峰の年間登山客数は約1万5千人と推計している。下山後の観光振興としてハイキングマップで芸濃・美里・安濃地域の観光施設・名所等を紹介し、集客力の向上を図っている。

その他の質疑・質問

- 議案第86号 令和4年度津市一般会計補正予算(第4号) から
  - 歳出 教育費 教育振興費 健康教育推進事業
- 中学校の上履き廃止について
  - 防災上の観点から
- 移動診療カー（いつまでも元気で号）の導入について

▶ 経ヶ峰の展望台からの景色

